

用語集

N 値

地盤の固さを表す指標であり、数値が高いほど固い地盤である。N 値は、質量 63.5kg のハンマーを 75cm 自由落下させて標準貫入試験用サンプラーを地盤に 30cm 打ち込むのに要する打撃回数。

液状化

地震による揺れによって地中から泥水や砂を吹き出す現象。地下水を多く含んだ軟弱な地盤で発生しやすい。

SI 値

Spectral Intensityの略で、地震の揺れの大きさを表わす指標のひとつ。地震波形から一般的な建物がもつ特定の固有周期範囲（0.1～2.5 秒）についての速度応答解析を行い、その平均値を算出することによって算出される。

FL 値

液状化の予測を行う際に用いられる値であり、地盤内の深度ごとに液状化の可能性を判定するもの。その深度の地盤の液状化強度（R）と地震時せん断強度（L）との比（R/L）をとって、液状化に対する安全率（FL）として算出する。FL = 1 なら液状化の可能性があり、FL > 1 なら可能性が少ないと判断する。

加速度

地震の揺れの大きさを表わす指標のひとつ。動く速さ（速度）が時間をおって大きくなる（または小さくなる）度合いであり、単位は cm/sec^2 （gal：ガル）を用いる。

マグニチュード

地震の規模を表す指標であり、地震計の記録に基づき算出される。日本では一般的には気象庁マグニチュードが用いられている。他に、震源断層面（地震を発生する断層面）の面積やすべり量などから求められるモーメントマグニチュードという指標もある。

警戒宣言

2～3日（または数時間）以内にマグニチュード 8 程度の東海地震が発生し、震度 6 弱以上の揺れが発生する恐れがある場合に、地震による被害を軽減させる目的で内閣総理大臣が発表する情報。

計測震度

震度は約 100 年前に観測が始まって以来、人体感覚や被害の状況などに基づいて決定されてきた。最近では、震度の機械観測が可能になり、1993 年ごろから計測震度計の配備が始まり、現在ではすべての気象官署に配備された。その原理は、加速度計で記録された地震波形に処理を施し、処理後の最大加速度から計算している。

工学的基盤

地震動が震源からの距離だけで表すことができるような、一様かつ広域の地域に設定できるある境界面を想定する。この境界面のことを地震基盤と呼び、S 波速度 3000m/sec 以上の堅固な岩盤を想定している。工学的基盤とは、この地震基盤よりも浅部にあり、表層の影響がより顕著になる地盤との境界、通常、N 値 50 以上の地層を指す。山梨県調査における工学的基盤上面の S 波速度は 700m/s と設定。

災害用伝言ダイヤル「171」

震度 6 弱以上の地震発生時、あるいは地震・噴火等の発生により被災地へ向かう安否確認のための通話等が増加し被災地へ向けての通話がつながりにくい状況（輻輳）になった場合に利用可能となる NTT の伝言ダイヤルシステム。携帯電話では、NTT ドコモや AU から災害用伝言板サービスが運用されている。

震度

地震の揺れの大きさを表わす指標のひとつ。ある場所の地震動の強さをいくつかの階級に分けて表現したもので、日本では気象庁が定めた 0 から 7 までの 10 段階（震度 5、震度 6 は強・弱の二段階に分かれる）の震度階が使われている。震度は、地震動の加速度だけでなく、周期や揺れの継続時間なども関連した、総合的に地震動の強さを表現できる指標。

速度

地震の揺れの大きさを表わす指標のひとつ。運動する物体の速さと方向を合わせたものであり、単位は cm/sec（あるいは kine : カイン）を用いる。

東海地震観測情報

東海地域の観測データに異常が現れているが、東海地震の前兆現象の可能性について直ちに評価できない場合に発表する情報。

東海地震注意情報

観測データの異常が東海地震の前兆現象である可能性が高まったと認められた場合に発表する情報で、これを受けて準備行動開始の意思決定等の対応がとられることとなる。

東海地震予知情報

東海地震が発生する恐れがあると認められた場合に発表する情報で、これを受けて警戒宣言等の対応がとられることとなる。

動的せん断強度比 (R)

地震で地盤が揺れた時に、液状化を起こそうとする力が働くが、これに地盤が抵抗する力のこと。N値（地盤の硬さや軟らかさをあらわす指標のひとつ）、地下水位、各地盤の平均的な粒の大きさといった地盤が固有に持っている特徴から計算することができる。

トリアージ

医療機関等において、医療機能が制約される中で、一人でも多くの傷病者に対して最善の治療を行うため、傷病者の緊急度や重症度によって治療や後方搬送の優先順位を決めること。

PL 値

液状化指数とも言う。PL 値はある地点の液状化の可能性を総合的に判断しようとするものであり、各土層の液状化強度（せん断応力に対する強度）を深さ方向に重みをつけて足し合わせた値。PL = 0.0 ならば液状化発生の危険性がない、あるいは極めて少なく、 $0.0 < PL \leq 5.0$ ならば液状化発生の可能性が低く、 $5.0 < PL \leq 15.0$ ならば液状化の可能性があり、 $15.0 < PL$ ならば液状化の危険性が高いと判断する。

表層地盤

工学的基盤（山梨県調査ではS波速度700m/sec）より浅い地盤を指す。表層地盤（浅部地盤）により地震動が増幅される。

輻輳

電話が殺到し電話がかかりにくくなること。輻輳は、防災機関などが行う応急復旧活動に大きな支障を及ぼす。そこで、応急復旧活動に支障を来さないよう、応急復旧活動にかかわる通話を確保するために、一般電話の通話規制が行われる。

メッシュ

地域を一定間隔の格子に区切ったもの。国土数値情報のメッシュデータには、区分方法により1次メッシュ（一辺の長さが約80km）、2次メッシュ（約10km）、3次メッシュ（約1km）がある。500mメッシュは、3次メッシュを4分割（縦横2等分）した大きさであり、250mメッシュは500mメッシュをさらに4分割（縦横2等分）した大きさである。